

# 町長 ひとくごと

(23)

齊藤 讓

## 戒石銘

「光陰矢の如し」とはよく  
いったものである。早や今年  
も、あと余すところわずかな  
歳の瀬をむかえるに至った。

時の流れの素早さを、しみじ  
みと感じるこの頃である。人  
それぞれに、一年を振り返れ  
ば、悲喜こもごもの出来事が、  
時の流れの中で、浮き沈みし  
ていったことであろう。気忙  
しい歳の暮れを迎えると、人  
はなぜか、決まって表情を際  
立たせるのである。充実、躍  
進に綻ぶ顔、挫折や悲嘆に曇  
る顔もあれば、中には感動の  
乏しい無表情な顔もある。人  
生や歴史は、この表情の積み  
重ねによって築かれる。しか  
し、今年一年の歩みは、人生  
にとつては極く一部であり、  
まして、悠久の歴史からみれ

ば、それは瞬するほどの殺那  
にしかすぎない。だから、一  
時の出来事や結果に、一喜一  
憂し、己を見失うようなこと  
があつてはならない。時は間  
断なく流れ、間もなく新しい  
年の流れがやってくる。今年  
へのこだわりを捨て去り、  
新たな決意と心構えをも  
つて、この流れに立向つて  
いこう。

ところで、今年の町行政は、  
各般にわたつて順調に推進す  
ることができたと思つている。  
これも偏に、町民の皆さんの  
ご理解とご協力のお蔭であり、  
感謝に堪えない。数多い事業  
の中で、特に、長い間の懸案  
であつた篠本開発が、本年十  
一月末に着工の運びとなつた  
ことは、職員の時代からこの

問題に取り組んできた私にと  
つては、肩の荷が一つおりた  
心地であり、感慨無量である。  
帝人株式会社が、この地に手  
を染めてから、実に十五年の  
星霜が過ぎていったのである。  
この間、元の地権者や地域の  
皆さんに、たい  
へんご心配やご  
迷惑をかけてき  
た。今こそ、この  
ご懸念を払拭し、  
ご期待に応える  
ときがきたと思  
つている。今回  
の開発は、町有  
地十二ヘクタ―  
ルに、運動公園  
と工場団地を造  
るわけであるが、  
これは、町が描  
く篠本全体開発  
計画の一部であ  
り、呼び水的な  
役割りを果たすに過ぎないの  
である。この町有地の後背に  
広がる地域を工業団地に開発  
して、優良企業を誘致し、雇  
用の場をつくり、税収を確保

することこそが真のねらいと  
するところである。光町は残  
念ながら、他市町と較して企  
業の集積が著しく低い状況で  
あり従つて、この篠本開発問  
題は、単に地域だけの問題で  
はなく、光町の将来がかかっ  
ているといつ  
ても過言では  
ない。しかし、  
これを実現す  
るためには、  
まだまだ数多  
くの課題が山  
積しており、  
決して容易な  
ことではない。  
私も不転の  
決意をもつて、  
この問題に真  
正面から取り  
組む覚悟であ  
る。地権者は  
じめ関係者の  
たりすれば、きつと天罰があ  
るであろう。」という意味であ  
る。私もこの四行十六文字を、  
胸にしっかりと刻んで、やが  
てくる新しい年の流れを迎え  
ようと思つている。



篠本上空から町有地を望む

用をつくり、税収を確保

格別のご理解とご協力を賜わ  
るよう懇願してやまない。  
いま確かに町政は、順調に

「お前の俸禄は、人民が脂し  
て働いたそのたまものにより  
得ているのである。お前は人  
民に感謝し、そしていたわら  
ねばならぬ。もしこの気持ち  
を忘れて、弱い人民達を虐げ  
たりすれば、きつと天罰があ  
るであろう。」という意味であ  
る。私もこの四行十六文字を、  
胸にしっかりと刻んで、やが  
てくる新しい年の流れを迎え  
ようと思つている。

この間、元の地権者や地域の  
皆さんに、たい  
へんご心配やご  
迷惑をかけてき  
た。今こそ、この  
ご懸念を払拭し、  
ご期待に応える  
ときがきたと思  
つている。今回  
の開発は、町有  
地十二ヘクタ―  
ルに、運動公園  
と工場団地を造  
るわけであるが、  
これは、町が描  
く篠本全体開発  
計画の一部であ  
り、呼び水的な  
役割りを果たすに過ぎないの  
である。この町有地の後背に  
広がる地域を工業団地に開発  
して、優良企業を誘致し、雇  
用の場をつくり、税収を確保

することこそが真のねらいと  
するところである。光町は残  
念ながら、他市町と較して企  
業の集積が著しく低い状況で  
あり従つて、この篠本開発問  
題は、単に地域だけの問題で  
はなく、光町の将来がかかっ  
ているといつ  
ても過言では  
ない。しかし、  
これを実現す  
るためには、  
まだまだ数多  
くの課題が山  
積しており、  
決して容易な  
ことではない。  
私も不転の  
決意をもつて、  
この問題に真  
正面から取り  
組む覚悟であ  
る。地権者は  
じめ関係者の  
たりすれば、きつと天罰があ  
るであろう。」という意味であ  
る。私もこの四行十六文字を、  
胸にしっかりと刻んで、やが  
てくる新しい年の流れを迎え  
ようと思つている。

福島県に二本松というところ  
がある。かつての丹羽氏十  
万石の城下街である。いまこ  
の城址が、霞ヶ城公園となつ  
ており、藩庁の通用門跡地に、  
藩士の戒めとして刻まれた石  
が今に残っている。

福島県に二本松というところ  
がある。かつての丹羽氏十  
万石の城下街である。いまこ  
の城址が、霞ヶ城公園となつ  
ており、藩庁の通用門跡地に、  
藩士の戒めとして刻まれた石  
が今に残っている。

福島県に二本松というところ  
がある。かつての丹羽氏十  
万石の城下街である。いまこ  
の城址が、霞ヶ城公園となつ  
ており、藩庁の通用門跡地に、  
藩士の戒めとして刻まれた石  
が今に残っている。

戒石銘

爾俸

爾禄

民膏

民脂

下民

上天

難欺